

日本音楽芸術マネジメント学会 『音楽芸術マネジメント』書式等

1. 2008年7月22日施行。
2. 2010年6月6日改正。

	研究論文	研究ノート	現場レポート	書評・紹介
内容	研究の成果の発表。	研究や調査についての報告。	音楽芸術活動の現場からの報告。	本学会の活動に関連する書籍や資料、行事等の紹介。
用紙	A4判、横書き。			
原稿の構成と使用言語	(1)タイトル(日本語・英語併記) (2)執筆者の氏名と所属機関等(日本語・英語併記) (3)要旨(日本語・英語併記) ※「研究論文」のみ必要。 (4)キーワード(5語以内、日本語・英語併記) ※「書評・紹介」は不要。 (5)本文(日本語あるいは英語) (6)注(日本語あるいは英語) (7)文献目録(日本語あるいは英語) ※英文は英語を母語とする者による校閲を経たものを提出すること。編集委員会は英文の妥当性についてその責を一切負わない。			
分量(要旨)	日本語 800字以内、及び英語 250語以内。	不要。		
分量(本文)	日本語 9,000～18,000字、または英語 3,000～6,000語。	日本語 4,500～9,000字、または英語 1,500～3,000語。		
出典の記載	引用に際しては必ず出典を明記すること。出典は本文中に次のように表記すること。 〔著者姓〕〔刊行年(西暦)〕:〔ページ〕 (例) (山田 2008: 92-93)、(yamada1992: 5) ※頻繁に引用する文献は略号で示し、その場合は文献目録の冒頭に略号一覧を明記すること。			
注	注は本文の後にまとめてつけること。 書誌情報は注に記載せず、文献目録としてまとめること。			
文献目録	文献目録は本文の後に一覧表としてつけること。 著者姓のアルファベット順に配列し、それぞれの書誌情報は以下のように記載すること。(_ はスペースを表す) ●書籍等 〔著編訳者名〕〔書名〕、〔刊行地〕:〔刊行者名〕、〔刊行年〕。〈叢書情報等〉 (例) 山田太郎(編)『アート』、川崎:阿云社、2008年。〈シリーズ「アートの現代」2〉 [author, etc.], "[title of book/ magazine]", [place of publication]: [publisher], [year]. (例) Yamada, Taro, "After the Arts", London: Peters, 2000. ●雑誌等掲載論文・記事等 〔著編訳者名〕〔論文名〕、〔発行者名〕〔誌名〕〔巻〕〔号〕:〔掲載ページ〕、〔刊行地〕:〔刊行者名〕、〔刊行年月〕。 (例) ジョン・スミス(著)、山田太郎(訳)「アートの考え方」、日本アート学会『アート』23(11):90-102、東京:月曜社、2008年3月。 [author, etc.], "[title of article]", in "[title of book or magazine]", [volume]([number]): [pages], [place of publication]: [publisher], [year and month]. (例) Yamada, Taro, 'The Thought of Arts', in "Arts of the World", 4(2): 1-9, New York: Dover, Nov. 1992. ※刊行者から刊行地が明らかな場合、誌名等から発行者が明らかな場合、それぞれを省略可とする。そのほか、実情に合わせて書式を若干変更することを認める。			
著作権	図表等の掲載にかかる著作権関係の諸問題は、執筆者が処理すること。			
投稿方法	原稿(注、文献目録、図表を含める)のデジタル・データを電子メールに添付して事務局宛に送付する。上記が困難である場合は、印刷した原稿(注、文献目録、図表を含める)3部を事務局宛に送付する。			
校正	執筆者は初校のみ担当し、再校は編集委員会が行う。 校正に際しては、組版・印刷上の誤り以外の字句の修正や挿入は認められない。			
掲載料等	投稿者は論文等の別刷り代金を負担する。			